

岡山県環境保健センター試験研究成果報告書

番号	H28-07	課題名	岡山県におけるリケッチア症の疫学的解析及び全国のリケッチアレファレンスセンターとの効果的な連携活動			
期間	平成25～27年度	担当科	保健科学部 ウイルス科			
試験研究の成果	1 目標達成状況 〔目標〕 県内の病原体保有マダニの分布状況を明らかにするとともに、全国6ブロックのレファレンスセンターと連携し、各地域の地方衛生研究所へ、検査法等の技術移転を行う。 〔達成状況〕 県内の病原体保有マダニの分布状況については、日本紅斑熱リケッチア(<i>R. j.</i>)の県内での媒介マダニ種を初めて確認するとともに、定点通年調査により、 <i>R. j.</i> 媒介の可能性のあるマダニの生息及び病原体保有の状況を明らかにした。 当科で改良した <i>R. j.</i> の検査用陽性対照の供給と検査法について、全国のレファレンスセンターと連携するとともに、他県地方衛生研究所への技術移転を行った。					
	2 具体的効果 患者発生地周辺の調査で捕獲したマダニから県内初となる <i>R. j.</i> の分離に成功、本病原体の県内での媒介マダニ種を初めて確認した。また、県内7定点で通年調査の結果、 <i>R. j.</i> の保有自体は確認されなかったが、媒介の可能性のあるマダニ5種が季節を問わず広域に生息していることが明らかになった。 他県の地方衛生研究所に対する技術的支援として、当科で改良した <i>R. j.</i> の遺伝子検査用陽性対照を、日本紅斑熱多発地域である中国四国地区の各地方衛生研究所に配布して症例発生時を想定した模擬訓練を行った。この結果、 <i>R. j.</i> の遺伝子検査が実施可能な地方衛生研究所が増加した。					
	3 当初目的以外の成果 特になし。					
	4 費用対効果 感染リスクの啓発により県内の日本紅斑熱発生症例数を減少させるとともに、迅速で正確な検査診断により早期治療につながることを期待される。					
実施期間中の状況	1 推進体制・手法の妥当性 実施体制 5人(H25年度：薬剤師1人、獣医師2人、衛生職1人、臨床検査技師1人 H26-27年度：薬剤師1人、獣医師2人、臨床検査技師2人) [年間従事人数：0.2～0.4人] マダニ生息調査と検査法の改良を同時並行で実施し、改良した検査法により生息調査で捕獲したマダニの病原体保有を調査したが、効率的であり妥当な手法であったと考える。					
	2 計画の妥当性 担当者の異動により若干の変更を余儀なくされる部分もあったが、概ね目標を達成できたところから妥当な計画であったと考える。					
成果の活用・発展性	1 活用可能性 開発・改良した検査法を用いたリケッチア症の流行状況の把握と疫学的解析、成果に基づく感染予防対策					
	2 普及方策 ・年報掲載：2報・学会発表：3回 ・開発・改良した検査法の県外検査機関への普及と改良陽性対照の分与 ・県、市町村等行政関係への情報提供					
	3 成果の発展可能性 マダニの生息調査の成果は、リケッチア症のみならず、SFTS等他のマダニ媒介感染症の感染リスク評価にも利用可能と考えられる。					
実績	実施内容	年度	25	26	27	総事業費 〔単位：千円〕
	(リケッチア検査法の改良普及) (県内マダニ生息状況の把握) (マダニの病原体保有状況の把握)					
	事業費		100	99	98	297
	一般財源		100	99	98	297
	外部資金等		0	0	0	0
	人件費(常勤職員)		3,200	1,600	2,000	6,800
総事業コスト		3,300	1,699	2,098	7,097	

